

令和元年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」成果報告書

たまの版 C C R sea 構想実現に向けた障害者スポーツ推進事業

実施報告書

令和2年3月

玉野市教育委員会

本報告書は、スポーツ庁の委託事業として、玉野市教育委員会が実施した令和元年度「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等にはスポーツ庁の承認手続きが必要です。

はじめに

玉野市では、若者から高齢者、障害者、移住者など全ての市民が活躍でき、共生社会の実現を目指す「生涯活躍のまち構想（たまの版C C R sea 構想（※平成29年3月に基本構想策定））」を掲げており、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の推進の取組の中で、スポーツ活動等を通じて障害者の社会参画の場の創出や障害の有無に関わらず地域で活躍できる場の提供等が主要事項の1つとなっています。

昨年度（平成30年度）から「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した障害者スポーツの実施環境の整備事業）」を受託し、「たまの版C C R sea 構想実現に向けた障害者スポーツの推進」に取り組んでおり、1年目には、予定していた4種類の観点（市立体育施設での障害者スポーツ普及プログラムの開発・実施、障害者福祉施設等への訪問型プログラムの開発・実施、民間体育施設や民間スポーツ競技団体と連携した障害者スポーツ普及プログラムの開発・実施、地域での障害者スポーツ普及のための学校体育館を活用したプログラムの開発・実施）からの試行的な取組を順調に実施し、初年度なりの手応えとともに、取組の難しさや課題も感じたところもありました。

特に、1年目の取組により、障害当事者へのアウトリーチ活動への取組のための連携の開始・試行プログラムの実施、市民向けの障害者スポーツプログラムを通じて障害者理解の促進が図られた一方で、障害福祉施設等へのアウトリーチ活動の充実のために、関係者との連携の充実やプログラムの工夫の余地があると同時に、障害者スポーツ・共生社会の理念を理解する機会の広がり、さらには、障害当事者の参画を促す取組等が重点的な課題と感じており、こうした観点から2年目の取組を推進していきました。

玉野市はスポーツが盛んであり、多くの市民がスポーツに関心を持っており、たまの版C C R sea 構想で掲げる共生社会の理念を全市に広げるには、スポーツを活用することが最も効率的・効果的であると考えており、現に1年目の取組により、関心が広がりつつある手応えがありますが、市の基本方針である「たまの版C C R sea 構想」の実現のため、1年目の取組の成果と課題を踏まえ、①市民が障害者スポーツ活動を通じて障害者理解（心のバリアフリー）を深めることができるための普及プログラムの推進、とともに、②市のスポーツ拠点である市立体育施設が障害者福祉団体等と連携し、障害者が身近にスポーツ活動に取り組むことができる環境の充実、を車の両輪として総合的に取り組んでいくこととしました。

令和元年度は、上記のような1年目の成果と課題を意識し、より地域の現状

やニーズを把握しながら、教育委員会が市長部局と協力して設置する「たまの版CCRsea 構想実現に向けた障害者スポーツ推進実行委員会（以下「実行委」という。）」において、有識者・関係機関・団体等と協議し、実行委による事業方針の決定や試行プログラムの内容の協議、市立体育施設による試行プログラムの具体化、実行委による試行プログラムの結果の検証・報告等を実施し、次年度以降の上記①及び②の取組の推進・充実につなげるとともに、「たまの版CCRsea 構想」の実現に寄与することを目指しました。

令和元年度は、以下の3種の観点から取組を推進しました。

①市立体育施設や地域の体育施設での障害者スポーツ普及プログラム

障害の有無に関わらず気軽に楽しめるスポーツを通じて、市民の障害者理解を深める普及プログラムや、障害者（特別支援学級関係団体等とも連携）が参加可能なスポーツプログラムを開発・試行実施し、市立体育施設の障害者スポーツ振興拠点機能を高めるとともに、市立体育施設から距離のある地域の体育館での取組の普及を推進する。

②障害者福祉施設等への訪問型プログラム

障害者福祉施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムへの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

③民間スポーツ施設や競技団体と連携した障害者スポーツ普及プログラム

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、ブラインドサッカーの取組が宇野港で定着するよう、普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体等との連携強化を図る。

①の試行プログラムは計4回、②は2回、③は1回実施し、合計で232名の参加がありました。②のプログラムでは障害当事者の参加がメインであったり、①のプログラムでは特別支援学級の児童生徒を対象にしたものもあり、多くの障害当事者の方の参加もありました。また、プログラムの中では、パラリンピアンや障害者スポーツ指導員の資格を持つ方による指導もあり、パラスポーツに触れるだけでなく、競技の魅力を知ったり、共生社会について考える機会となりました。

特に今年度成果があった取組としては、

- ・今年度新たに特別支援学級等の児童生徒保護者の団体や新たな障害福祉団体等と連携したプログラムが実施できたこと、また、アウトリーチプログラム

に参加した一部の参加者が普及プログラムにも参加されたこと。

- ・市立体育施設のスタッフのみならず、地域のスポーツ推進委員にも各プログラムに積極的に参画していただき、障害者スポーツプログラムに関わる者が増加したこと。
- ・本事業外でも、市内部のスポーツ担当部局と健康福祉部局の連携が進み、一部の健康福祉部局の障害・高齢者向けプログラムを市立体育施設で新たに実施されるなど、市立体育施設の障害者スポーツの拠点機能が高まってきたこと。

などが挙げられます

また、こうした成果については、令和2年1月にスポーツ庁主催で開催された報告会の中でも共有させていただきました。

さらに、パラスポーツの取組が市のテーマである共生社会の実現に貢献していると評価され、来年度（令和2年度）からの本市の総合戦略である「たまの創生総合戦略（第2期）」においても、「誰もが活躍できる地域社会を実現する」観点から、「スポーツを通じた共生社会の実現に向けて、障害者が健常者と同様にスポーツに親しめるように、障害者スポーツの環境整備を推進する」ことが具体的施策・事業として記載され、今後5年間の重点施策として取り組んでいくこととしています。

次年度も、今年度の取組を踏まえ、スポーツを活用した共生社会の実現に向けた取組を推進していく予定です。

1. 試行プログラムの概要

試行プログラムは以下の日程・場所で実施しました。

①市立体育施設や地域の体育施設での障害者スポーツ普及プログラム

- 1回目 令和元年 8月 3日 レクレセンター体育館
- 2回目 令和元年12月13日 玉原小学校体育館
- 3回目 令和2年 1月18日 レクレセンター体育館
- 4回目 令和2年 2月22日 玉野スポーツセンター

②障害者福祉施設等への訪問型プログラム

- 1回目 令和元年 7月16日 すこやかセンターやまももホール
- 2回目 令和元年 9月30日 サンライフ玉野

③民間スポーツ施設や競技団体と連携した障害者スポーツ普及プログラム

- 1回目 令和元年12月14日 宇野港フットサルコート

それぞれの試行プログラムの概要やスタッフの感想、参加者のアンケート結果の概要は次ページからを参照してください。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者施設訪問型プログラム」 報告書

1. 趣旨

障害者施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2019年7月16日（火） 13:00～14:00

3. 場所

すこやかセンター やまももホール

4. 内容

リズム体操、フライングディスク体験

5. 参加者人数

ほほえみ作業所・しらさ工房・同舟の園 30名

6. 講師紹介

玉野スポーツネットワークJVスタッフ（今井、大田、岡野、大西）

7. 「障害者施設訪問型プログラム」の様子

【スタッフ挨拶、自己紹介】

○担当スタッフの挨拶、自己紹介、プログラム説明などを行いました。

【リズム体操】



○音楽に合わせて簡単な体操やストレッチ、筋力トレーニングを行いました。手や肩を大きく動かすような動きや、全身を使った有酸素運動を取り入れることで、体が楽になったり、心も体もスッキリできたりするようなプログラムにしました。前回同様身体だけでなく、頭の体操を取り入れることで、脳の活性化も意識した内容としました。リズム体操の最後には少し難しい動きも取りいれてみましたが、予想をはるかに超えて参加者の皆さんが動けていたので驚きました。

【フライングディスク体験】



フライングディスク体験

○2 チームに分かれ柔らかく安全性の高いドッジビーを用いて実施しました。対面で投げる練習後、3チームに分かれてアキュラシーの体験を行い、円形のゴールに投げる体験も行い盛り上がり、初めてフライングディスクを体験された方もとても楽しそうにされていました。また、フライングディスク競技で岡山県の国体選手として出場されている参加者に皆さんの前でデモンストレーションを披露して頂き盛り上がりました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者施設訪問型プログラム」では、普段運動機会の少ない障害を持たれている方に対し運動を通して心や体をリフレッシュして頂く機会となり、好評のうち無事イベントを終えることができました。今回初めて参加された方も緊張されていたとは思いますが、他の施設の方と一緒に運動を行うことで楽しく実施でき、なにより参加者の方々よりスタッフのもとへお礼と握手をしに来てくださる等、スポーツを通じて地域とのつながりや参加者との距離が縮まってきている事を実感しました。また、前回よりも参加者全員が見やすく動きやすいようにスタッフはステージの上から、後半は1名追加し側面、背面の実演。参加者はフロアへ半円で椅子を置き工夫しました。また耳の遠い方や、下肢の力が入りにくい方へのサポートも実施しました。実施内容や流れに関しては前回からあまり変更していませんが、初めて参加された施設のスタッフから見て少し難しい動きがあったとご意見頂いたので、次回実施の際は参考にしたいと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「あすなろ会 親子体操」 報告書

1. 趣旨

玉野市支援学級事務局と連携し、支援の必要な子どもたちとその親が気軽に楽しめる運動プログラムを実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2019年8月3日（土） 10:00～12:00

3. 場所

玉野市総合体育館（アリーナ）

4. 内容

(1部) チーム対抗レクリエーションリレー

大玉転がし、風船うちわりレー、フラフープリレー、親子であそ棒リレー

(2部) 親子分かれての運動

子供：スラックライン、トランポリン、ポッチャ、ビーチボールを使ったミニバレー

親：かんたんヨガ

5. 参加者人数

33名

6. 講師紹介

スラックライン日本人初の世界チャンピオン 大杉 徹（ガッパイ）さん

岡山県体操協会 トランポリン委員 高尾さん

7. 「あすなろ会 親子体操」の様子

【玉野市長 挨拶】



【準備体操】

○準備体操として全員で音楽に合わせて「エビカニボックス」を踊りました。

【1部 チーム対抗リレー】



親子であそ棒リレー

勝って喜ぶ様子

○1部は親子一緒にチーム対抗リレーを行いました。事前に2チームに分け、種目は全4種（親子一緒に大玉を転がして進む大玉転がしリレー、3つに繋がれたフラフープの中に入り走るフラフープリレー、風船をうちわで挟みながら進む風船うちわりレー、長い棒を一緒に持って走る親子であそ棒リレー）を実施しました。簡単で楽しい内容に喜ばれていました。親子一緒に行うプログラムをまず行うことで、子供たちも安心して運動でき、緊張をほぐせたと思います。皆さん笑顔で取り組まれていました。

【大杉 徹（ガッパイ）さん紹介、挨拶、デモンストレーション】



大杉 徹さん 挨拶

デモンストレーション

○日本人ではじめてスラックラインで世界チャンピオンになられた大杉徹さんを講師に迎え、スラックライン体験を行いました。大杉さんによるデモンストレーションでは、基本のバランス技や目隠しをした状態での技を披露していただき歓声が上がっていました。また、質問コーナーを設け、質問をしてくださった方6名に大杉さんのサイン色紙をお渡ししました。

【2部 親子わかれての運動】

子供たち：スラックライン、トランポリン、ビーチボールミニバレー、ポッチャ、フライングディスク体験

親：かんたんヨガ



スラックライン



トランポリン



ビーチボールを使ったミニバレー



フライングディスク



かんたんヨガ



かんたんヨガ

○2部は子どもたちと親にわかれてのプログラムを行いました。子どもたちは、スラックライン、トランポリン、ビーチボールミニバレー、フライングディスク、ポッチャ体験を行い、親はかんたんなヨガの体験を行いました。子どもたちは、スラックライ

ンやトランポリンなど、講師の方々に教わりながら楽しく取り組んでいました。スラックラインは通常の高さよりも低く設定して行い、トランポリンも安全に考慮して周りを囲むようにマットを敷いたり、上り下りの際に使う階段に跳び箱で踏み台を置くなどして実施しました。ビーチボールを使ったミニバレーも、通常のミニバレーのネットの高さではなく、バドミントンの支柱にミニバレーボール用のネットを張ってより簡単に楽しめるよう工夫しました。親は初めての方でも簡単に行えるヨガで、ストレッチや太陽礼拝、立位でのポーズを体験していただきました。子どもたちとわかれての運動で、非日常的な空間を楽しんでいただきリフレッシュできるよい機会になったと思います。かんたんヨガ体験終了後、身体が楽になった、癒されたなどのご感想を頂きました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「あすなろ会 親子体操」では、支援の必要な子どもたちとその親が気軽に楽しめる運動プログラムを実施しスポーツを身近に感じることができる、よいイベントとなりました。1部2部にわけてのプログラム構成は、親子一緒に楽しめる内容と親子それぞれが楽しめる内容が一度に体験できたことで大変好評でした。また、大杉さんのスラックラインデモンストレーションでは、子供たちは勿論、大人の参加者の皆様も初めて見るパフォーマンスに喜ばれていました。トランポリン体験やその他の体験についても、トランポリン講師の高尾さんや玉野市スポーツ推進委員の方々にご協力いただき、安全に楽しく子どもたちが運動に取り組めるように良い環境でイベントが実施できました。様々なスポーツを通じた健康づくりや地域交流につながったのではないかと思います。今回の課題としては、参加人数に対して実施種目数が多くなってしまったことです。理由としてイベント開催直前まで参加人数が把握できなかったことありますが、臨機応変に種目数の増減はできるように準備しておくべきだったと思います。次回はこの反省を活かし、参加人数に応じて種目変更ができるよう事前に準備し、玉野市支援学級事務局の方とも相談しながら適切な種目数で参加者の皆さんに楽しんでいただけるイベントづくりに努めたいと思います。このようなイベントを通して、地域とのつながりができ、今後の障害者スポーツイベントや、スポーツ教室にも積極的に参加できるきっかけになればと思います。



集合写真

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者施設訪問型プログラム」 報告書

1. 趣旨

障害者施設等と連携し、日頃運動の機会が少ない障害者が気軽に楽しめる運動プログラムを訪問型で実施することで、スポーツへの関心を高めるとともに、日常の運動機会の増加やスポーツ施設等におけるプログラムの参加につなげるなど、スポーツを通じた健康づくり、社会参加につなげる。

2. 実施日

2019年9月30日（月） 10:00～11:30

3. 場所

サンライフ玉野

4. 内容

リズム体操、フライングディスク・ボッチャ体験

5. 参加者人数

聴覚障害者6名

6. 講師

玉野スポーツネットワークJVスタッフ（今井、青井、大田）

手話通訳（金川さん、河村さん）

玉野市スポーツ推進委員（尾崎さん、中塚さん）

7. 「障害者施設訪問型プログラム」の様子

【手話でのスタッフ挨拶、自己紹介】

○担当スタッフの挨拶、自己紹介を手話で行いました。

【リズム体操】



○椅子に座ってストレッチとリズム体操を行いました。手や肩を大きく動かすような動きや、全身を使った有酸素運動を取り入れることで、肩こりや腰痛が楽になったり身体が軽くなるようなプログラムにしました。頭の体操も取り入れ、皆さん笑顔で取り組まれていました。音楽を流さずプログラムを行ったので、聴覚障害を持たれていない参加者の方は少し物足りなさを感じたかもしれません。次回は音楽を流して、障害を持たれている方も持たれていない方も同じように楽しめるように工夫したいと思います。リズム体操終了後は、身体が軽くなったと喜ばれていました。

【フライングディスク体験】



○フライングディスク（アキュラシー）の体験を行いました。まず、フライングディスクの持ち方や投げる時のコツなどをスタッフから説明し、スタッフと参加者で二人一組になり、対面で投げる練習を行いました。練習後二つに分かれてアキュラシーの体験を行い、1人5投の内何枚ゴールに入るか挑戦しました。初めてフライングディスクを体験された方も多く、最初は真っすぐ投げることに苦戦されていましたが、回数を重ねるうちに上達しゴールにディスクを入れられるようになりました。皆さんとても楽しそうにされ、体験終了後もどのようにしたらもう少しうまく投げられるかスタッフへ尋ねに来られた方もいました。

【ポッチャ体験】



○ボッチャ体験を行いました。フライングディスク同様、最初にスタッフからボッチャのルールなど説明を行いました。説明後まずは座ったままの状態、ジャックボールに向かって全員がそれぞれ1投ずつ、投げる練習を行いました。2回程練習をした後、2チームに分かれて試合形式で行いました。皆さんとても上手で接戦となり、盛り上がりました。大変楽しそうに取り組まれていました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者施設訪問型プログラム」では、普段運動機会の少ない障害者に運動を通して心や体をリフレッシュして頂く機会となり、好評のうち無事イベントを終えることができました。今回手話クラブへの訪問型運動プログラムは初の試みということもあり、参加された方も緊張されていましたが、一緒に体を動かすうちに緊張が解け、笑顔で楽しんでいました。また、スタッフ自身も聴覚障害を持たれている方への運動指導は初めてだったので不安もありましたが、手話通訳の2名の先生のお支えもあり、運動プログラムのスムーズな進行と参加者の方との円滑なコミュニケーションが行えた大変よいイベントとなりました。今回講師として参加したスタッフはプログラムの最初に手話での挨拶や自己紹介を行ったり、体操や競技説明など身体や表情を大きく使って表現する新たな学びとなりました。特に手話での挨拶や自己紹介は参加者の皆様と心の距離が近づいたように思います。今回のイベント終了後には、またやりたい、是非また誘って欲しいと言っていただけたので、今後も施設訪問型プログラムだけでなく、玉野市総合体育館で実施の障害者スポーツイベント等にも積極的に参加して頂けるように地域とのつながりを大切にしてイベントの企画、実施していきたいと思っております。



集合写真

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「ブラインドサッカー体験会」 報告書

1. 趣旨

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、ブラインドサッカーの取組みが定着するよう、小学校訪問型普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体と連携強化を図る。

2. 実施日

2019年12月13日（金） 16:15～17:45

3. 場所

玉原小学校 体育館

4. 内容

ブラインドサッカー体験

5. 参加者人数

玉原小学校児童クラブ 16名

6. 講師紹介

ブラインドサッカー日本代表強化指定選手 寺西一さん（アシスタント：小島さん）

7. 「ブラインドサッカー体験会」の様子

【寺西一選手紹介、ご挨拶】



寺西一選手紹介



挨拶、ブラインドサッカーについてなど

【寺西一選手のプレーを実際に見てみよう】



アイマスクをつけた状態でのパス



声を頼りにドリブル



コーンの間にシュート



コーン当て

○寺西一選手によるデモンストレーション。アイマスクをした状態でのドリブルやシュート、特にコーン当てでは歓声が上がっていました。

【視覚障害者の気持ちを体験してみよう】



3人組になり、2人がアイマスクをつけた状態での準備体操



○寺西一選手が指示した動き（ストレッチ）を見て、目の見えている人がどのように見えていない人に声だけで正しい動きを伝えればいいのか苦戦していました。ストレッチの名称が分かるものもあれば、上手く説明できない複雑な動きなどもあり、悩みながらも一生懸命に取り組み、相手にうまく伝わった時は「そう！それ！」と、とても盛り上がっていました。



アイマスクを付けた状態で仲間の所まで走る



ボールを手で拾い、仲間の所まで届ける

○3つのグループに分かれて仲間の声を頼りに走ったり、真ん中にあるボールを拾って仲間にボールを届けたりしました。寺西選手や小島さんから、目の見えている人の声かけの大切さや、どのような声掛けをするとうまくいくのか等、ヒントをもらいながら子供たちで考え、取り組んでいました。目の見えない環境に怖さを感じながらも、グループ全員で声を掛け合い、楽しんでいました。動きに慣れたらチーム戦で、3分間で何回ボールの受け渡しができるかを対決しました。

【ブラインドサッカー体験】



コーンの間にボールを蹴る

○真ん中に置いてあるボールの所まで歩き、コーンの間にボールを蹴って通せるか挑戦しました。チーム戦で、3分間で何回コーンの間を通せるか対決しました。



ドリブル ⇒ シュート

○ガイドがアイマスクをしている人の正面に立ち、声をかけながら真ん中までドリブルで進み、コーンの間にシュートするまでを行いました。



○どうすればよりうまくできるかみんなでお話ししました。



コーン当て

○寺西選手が体験会の最初に披露して下さった、アイマスクをつけた状態でのコーン当てに挑戦しました。コーンに向かって指を差して場所を確認したり、コーンを叩いて音を鳴らして場所を伝えたりしながらグループで10回を目標に取り組みました。



○寺西選手への質問コーナーでは、子供たちからサッカーを始めたきっかけや得意なプレーなどの質問があり、丁寧に答えてくださいました。質問をしてくれた人には寺西選手からサイン色紙のプレゼントがありました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「ブラインドサッカー体験会」では、普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、興味・関心を高められたイベントとなり、好評のうち無事イベントを終えることができました。視覚障害者の気持ちや大変さなどを知ることができる良い機会となり、どのようにすればよいコミュニケーションがとれ目標が達成できるのか、子どもたち自身が話し合っ改善していく姿が多く見えました。「サッカーは苦手だったけど、ブラインドサッカーは楽しかった」と感想をくれた人もおり、障害の有無やスポーツの得意不得意関係なくみんなで楽しむことのできるスポーツだと改めて感じました。このイベント機に今回参加できなかった友達や家族にブラインドサッカーの楽しさを伝え、一人でも多くの方にブラインドサッカーや障害者スポーツに興味をもってもらえればよいと思います。

小学校でのイベント開催は場所や時間帯などが限られ、参加者も限られてしまいますが、より身近な人たちと取り組むことができるので、コミュニケーションも図りやすくスムーズに進行できました。今後もより多くの方に体験していただけるよう継続して行っていけるとよいと思います。また、今回は生徒が主とした体験会でしたが、保護者や先生なども一緒に障害者スポーツを体験できるような工夫や案内も行っていければ障害者スポーツに関する興味・関心が更に増え、今後の普及につながっていくと思うので、今後のイベント企画・開催に活かしたいと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「ブラインドサッカー体験会」 報告書

1. 趣旨

民間体育施設や民間スポーツ競技団体等と協働して、ブラインドサッカーの取組みが宇野港で定着するよう、普及プログラムを実施することにより、市立体育施設と民間体育施設・民間スポーツ競技団体と連携強化を図る。

2. 実施日

2019年12月14日（土） 10：00～12：00

3. 場所

宇野港フットサルコート

4. 内容

ブラインドサッカー体験

5. 参加者人数

60名

6. 講師紹介

ブラインドサッカー日本代表 寺西一選手（アシスタント：小島さん）

7. 「ブラインドサッカー体験会」の様子

【寺西一選手紹介、ご挨拶】



寺西 一さん紹介



挨拶、ブラインドサッカーについてなど

【寺西一選手のプレーを実際に見てみよう】



パス、トラップ



ドリブル



マーカーの間へパス



コーン当て

○寺西一選手によるデモンストレーション。対面でのパスや、ドリブル、コーン当てなどを披露してくださいました。目が見えているかのような正確なプレーに、子供たちは驚いていました。

【視覚障害者の気持ちを体験してみよう】



2人組になり、1人がアイマスクをつけた状態での準備体操

○寺西一選手が指示した動き（ストレッチ）を見て、見えている人がどのようにして見えていない人に声だけで正しい動きを伝えればよいのか苦戦していました。



アイマスクを付けた状態で仲間の所まで走る



ボールを手で拾い、仲間の所まで届ける

○仲間の声を頼りに歩いたり、ボールを届けたりしました。目の見えない環境に怖さを感じながらも、楽しく体験していました。繰り返し行うことで、目の見えている人がより具体的な指示が出せるようになり、スムーズに動けていました。動きに慣れたらチーム戦で、3分間で何回ボール渡しができるかを対決しました。

【ブラインドサッカー体験】



ボールの所まで歩き、コーンの間にボールを蹴る

○真ん中に置かれたボールの所まで歩き、コーンの間にいる相手に向けてボールを蹴りました。ボールがある位置をしっかりと把握し、手を正面に伸ばすことにより正確に行えるというアドバイスを受け、実施しました。練習後、3分間で何回コーンの間を通せるか対決しました。



コーン当て ○寺西選手が披露してくださったコーン当てに挑戦しました。



集合写真

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「ブラインドサッカー体験会」では、普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、興味・関心を高められたよいイベントとなりました。また、天気にも恵まれ好評のうち無事イベントを終えることができました。子どもたちは、初めてのブラインドサッカーに怖さも感じつつ、一生懸命に取り組んでいました。イベント前半では、具体的な声掛けや指示ができなかった子どもたちも、後半では相手への分かりやすい声かけや音などの工夫ができ、スムーズにボールの受け渡しなどができていました。今回は各所属チームごとでグループ分けをしましたが、今回はそれぞれのチームの親睦や交流も兼ねて、各チーム混在したグループ分けをして行いました。障害者スポーツ普及に加え地域交流もでき、大変よかったですと思います。

前回よりも20名程多い参加をいただきましたが、集客などにはまだまだ課題があると感じました。玉野市のサッカーチームがほとんどでしたが、スポーツが苦手な子どもやサッカーが苦手な子どもたちにも参加したいと思ってもらえるようなアプローチを考えていきたいと思います。そのためには、まず指導者や保護者の方の障害者スポーツへの関心を高めることで、子供たちへの障害者スポーツの興味・関心の向上や普及につながっていくと思うので、今回のような障害者スポーツイベントを継続して行ってきたいと思います。また、場所などの限りがあった為、前回のように指導者の方たちも一緒に参加することは困難でしたが、保護者や指導者なども多く来られていたので、今後は一緒に参加・体験できるような工夫ができればと思います。

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「障害者スポーツ体験イベント」 報告書

1. 趣旨

障害の有無に関わらず気軽に楽しめるスポーツを通じて、市民の障害者理解を深める普及プログラムや、障害者が参加可能なスポーツプログラムを開発・試行し、市立体育施設の障害者スポーツ振興拠点機能を高める。

2. 実施日

2020年1月18日（土） 13:30～15:30

3. 場所

玉野市総合体育館（アリーナ）

4. 内容

ボッチャ、シッティングバレー、卓球バレー、フライングディスク、車いすスラローム、車いすバスケ

5. 参加者人数

67名（アンケート回答56名）

6. スタッフ

玉野スポーツネットワークJV 4名、スポーツ推進委員 7名
手話通訳2名（大澤 博仁さん、山本 優子さん）

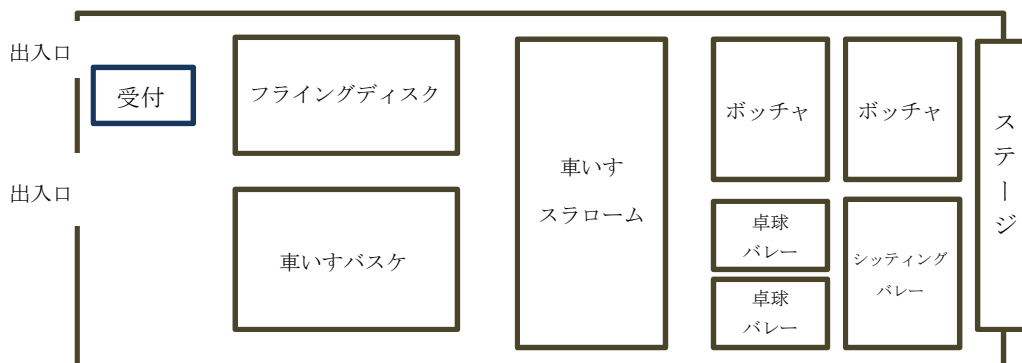
7. 「障害者スポーツ体験会」の様子

【体験会開会あいさつ、体験会の流れや各ブースの説明】



○各ブース（ボッチャ、シッティングバレー、卓球バレー、車いすスラローム、車いすバスケ、フライングディスク）を全員で回り、競技説明を行いました。

○会場見取り図



【実際に障害者スポーツを体験してみよう】



ポッチャ

○通常よりも少しコートを狭くし、子供や障害を持った方でも簡単に楽しめるよう工夫しました。家族や仲間と一緒に楽しんだり、各グループで対決をするなど盛り上がっていました。投げ方やルールなど、参加者とコミュニケーションを取りながら行うことで、よりポッチャの魅力を伝えることができました。



シッティングバレー

○シッティングバレーボールでは、通常ルールを変更して柔らかいボールを使ったり、好きな位置からサーブが打ったり、3回以内でなくても床にボールがつかなければ何回でも続けても相手にボールを返せばよいルールとしました。座位の状

態でお尻を床から離さず、上半身をうまく使ってボールを打つことに最初は苦戦していましたが、何度か繰り返し取り組むうちにコツが掴めラリーが続き、大変盛り上がっていました。



卓球バレー



車いすスラローム

○卓球バレーでは、障害を持たれている方や子供でも椅子に座って簡単に行えるので大変喜ばれ、何度も体験にくる姿も多く見られました。車いすスラロームでは、パン食い競争の要素をプラスし、より楽しく参加していただけるように工夫しました。



フライングディスク



車いすバスケ

○フライングディスクは5mと7mの位置に投げるラインを設け、アキュラシーの体験をしました。一人5枚を目安にゴールの間を何枚通せるか挑戦しました。車いすバスケ体験では、車いすに乗った状態でボールを持ち好きな位置まで移動してゴールにシュートを打つ体験を行いました。座った体制でのシュートは難しく、特に子供たちはなかなかゴールまでボールが届かなかったりもしましたが熱心に取り組んでいました。

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「障害者スポーツ体験会」では子供から大人まで幅広い年齢層の方にご参加いただき、様々なパラスポーツを一度に体験できるよいイベントとなりました。今回は、会場に6種目のブースを配置し、それぞれルールを変更したりコートを狭くするなどして誰で

もが簡単に行えるよう工夫しました。また、受付時に体験会スタンプラリー用紙を配布し、それぞれのブースを体験したらスタンプを押してもらうことにしました。これまでの障害者スポーツ体験会では、障害を持たれていない方の参加が多く、障害を持たれている方をあまり巻き込めていなかったことが課題にもありましたが、アウトリーチ活動や障害者スポーツ普及活動を継続したことで、今回は障害を持たれている方も多くご参加いただき、楽しんでいただきました。参加された皆様にも「また是非呼んでほしい」「自分たちでもこんなに楽しめると思っていなかったからうれしい」など感想を頂きました。今後もさらによりよいイベントとなるよう、イベント内容はもちろん会場内のレイアウトや休憩場所の配置など過ごしやすく参加しやすい環境づくりに努めたいと思います。



集合写真

玉野市障害者スポーツ推進プロジェクト

「車いすバスケット体験会」 報告書

1. 趣旨

障害者スポーツの選手・指導者を招き、子どもから大人まで誰もが楽しめる障害者スポーツを通じて障害者スポーツに対する興味・関心を高め、玉野市の障害者スポーツを推進する。

2. 実施日

2020年2月22日（土） 10:00～12:00

3. 場所

玉野スポーツセンター 大体育館

4. 内容

車いすバスケット体験

5. 参加者人数

田井小学校児童及びその保護者 20名

6. 講師紹介

元プロ車いすバスケットボール選手 堀江 航さん

7. 「車いすバスケット体験会」の様子

【堀江 航選手の紹介・挨拶、講演】



堀江 航選手紹介、挨拶



講演

○堀江選手からご自身の車いすバスケの経歴や様々なスポーツ（パラアイススレッジホッケー等）への挑戦などについてお話しいただきました。また、バスケットボール用の車いすと通常の車いすの違いなどもわかりやすく教えていただき、子どもたちは堀江選手からの質問に積極的に手を挙げて参加していました。



○堀江選手の義足を外して実際の足を見せて頂いたり、子どもたちが直接義足に触れる場面もあり、普段できない貴重な体験に子どもたちは興味津々でした。

【堀江 航選手のプレーを実際に見てみよう】



車いすの操作

ドリブル

○堀江選手によるデモンストレーション。車いすの操作や、ドリブルなど解説を交えて披露してくださいました。

【車いすバスケを体験してみよう】





車いす操作（ターン、後進）



堀江選手と鬼ごっこ

○3人一組になり、順番に体験を行いました。前進やターンなどの練習を行った後、堀江選手と鬼ごっこをしました。堀江選手の車いす操作スキルに、見ている参加者からは感心の声があがっていました。



ドリブル



シュート

○車いすに乗った状態でのドリブルや、シュートの体験を行いました。ドリブルでは、その場でドリブル練習を行ってから実際の車いすバスケのルール（トラベリング）に則って2回車いすを漕いだら1回ドリブルに挑戦しました。最初は車いすの操作とボールの扱いに苦戦していましたが、繰り返し取り組むうち、徐々に慣れ上手にドリブルができていました。また、シュート体験では4つのゴールにそれぞれのグループに分かれて交代しながら行い、座った状態でのシュートに苦戦しながらも楽しく挑戦しました。低学年の子供たちはゴールまでボールが届かず、シュートを決めることはなかなか難しかったですが、高学年の子供たちや保護者の皆様はコツを掴むと何本もシュートを決めていました。



試合



○最後に4対4の試合を5分間(×3本)行いました。ドリブルやシュートなど、練習の際上手くできていたことが、試合になると上手くいかないことも多くどのチームも接戦で大変盛り上がりました。車いすバスケの難しさを改めて感じながら必死にボールを追いかけて、一生懸命取り組んでいました。最後の試合では、低学年の女の子がシュートを打つ際に全員で応援し、シュートが決まって喜ぶ姿が印象的でした。



質問コーナー



集合写真

8. スタッフの感想、課題、次回に向けての取り組み

「車いすバスケ体験会」では、元プロ車いすバスケ選手を迎えて普段体験することのできない障害者スポーツに触れ、好評のうち無事イベントを終えることができました。体験を通して車いすバスケや障害者スポーツへの興味・関心を高められたよいイベントとなりました。体験プログラム内容も参加者全員が同じように取り組むことのできる内容だったので、子どもから大人まで幅広い年齢層で一緒に楽しむことができるスポーツということを改めて感じました。低学年の子供たちは車いすに乗った状態でのドリブルに苦戦していましたが、堀江選手にアドバイスをもらいながら一生懸命取り組み、体育館をドリブルで往復できるようになっていました。今回は田井小学校の児童及び保護者を対象に行いましたが、田井小学校の体育館が工事中で使用できなかったこともあり、場所や送迎の都合で参加できなかった子どもたちもいたようなので、次回は対象の小学校で開催できるようにするなど工夫してよりたくさんの方が参加できるようにしたいと思います。堀江選手の障害があっても何事にも前向きに取り組む姿勢に刺激を受けた参加者も多かったと感じます。また来年も参加したいと言って下さる方も多くいたので、今後も車いすバスケの普及とともに障害者スポーツ推進に努めていきたいと思っています。車いすの確保等にも課題はありますが、少ない台数でも取り組めるプログラムの工夫等を学ばせていただいたので今後のイベント開催時に活かしていきます。

2. 2年目の取組を終えた担当者の感想

○板野慎一郎 玉野市教育委員会社会教育課文化・スポーツ係長

昨年度（1年目）から関わり、今年度は係長になったこともあり、昨年度よりも深く本事業に取り組みましたが、市と体育施設と福祉関係団体のネットワーク（連携）が最も重要であると改めて実感しました。今年度はスポーツ推進委員にも積極的に参加していただき、障害者スポーツを地域で広める人材育成という面でも効果的な1年間になったと確信しています。

また、子ども達の体験では、仲間にしっかり大きな声を出して取り組むことで大人に成長する過程で身につけるべきコミュニケーション能力向上の一助にもなっており、多方面に有意義な事業であると感じております。

今後引き続き、各方面との連携を強固なものとし、健常者も障害者も多く市民に参加いただけるよう、取組内容も工夫しながら、継続的に取り組み本市においてしっかり定着させていきたいと思っております。

○多田由美子 玉野市政策財政部総合政策課主幹

2年目の事業として、障害者がより積極的に参加できるように玉野市障害者総合支援協議会との連携を強化したり、障害児・者をサポートしている保護者や学校、施設関係者との顔の見える関係や相談窓口などを確保することにより、よりスムーズな取組ができたと思われまます。今回の障害者スポーツを通じた多くの人との関係づくりは、生涯活躍のまち構想の共生社会の推進はもちろんのこと、すべての市民が生きがいに満ちた生活や生涯にわたって活躍できる魅力的な地域社会の土台となることとして重要なことであり、この事業により、よりいっそう推進されたものと思っております。

○今井誠 玉野スポーツネットワークJV管理責任者

今年度はアウトリーチ活動をきっかけに、より多くの市民の皆様を巻き込んだ市の体育施設イベントにお越し頂くことを目標に取り組みました。新たに聴覚障害者への運動指導ではプログラム構成に迷いながらも動きの大きさやスピード、手話通訳の方への配慮なども考えることで分かりやすい指導に努めました。継続した取り組みにより障害者施設の皆様との繋がりができ、イベントへ積極的に参加しやすい環境づくりや仲間づくりができているように感じまます。今後も継続して障害の有無関係なく楽しめ触れ合えるようなイベントの企画、開催に努めて参ります。

3. 参考資料

たまの版CCRsea 構想実現に向けた障害者スポーツ推進実行委員会 名簿

石川 雅史	玉野市教育委員会教育長
大川 佳郎	玉野市教育委員
藤原 敬一	玉野市教育委員会教育次長
小崎 隆	玉野市健康福祉部長
多田由美子	玉野市政策財政部総合政策課主幹
白井 福美	玉野市スポーツ推進委員
今井 誠	玉野スポーツネットワークJV管理責任者
岡崎 靖子	玉野市地域子ども楽級コーディネーター
大田 卓男	玉野市サッカー協会副会長
五嶋 幹雄	玉野総合医療専門学校介護福祉学科長
丸本 明奈	宇野港フットサルコートマネージャー

(実行委員会の開催)

令和元年7月12日	試行プログラム基本方針等の協議 等
令和2年2月22日	今年度の取組・成果について 等
令和2年2月28日	試行プログラムの取組の評価・事業のまとめ 等

おわりに

今年度は、スポーツ庁における報告会において、本市のスポーツ担当、総合政策・障害福祉担当、市立体育施設責任者が一緒に参加し、本事業を受託している団体と意見交換する場をいただくなど、これまで進めてきた取組の成果を共有し、その意義を再確認する年となった。特に、障害当事者への関わりの部分は、本市でも重点的に取り組んでいる部分であり、本市の熱心な取組が参加者に伝わったのではないかと考えています。

本市は、若者から高齢者、障害者、移住者など全ての市民が活躍でき、共生社会の実現を目指す「生涯活躍のまち構想（たまの版CCRsea 構想）」の具体化の1つとして、本報告書で紹介させていただいたような障害者スポーツの取組を推進することにより、共生社会実現に向けて取り組んでいるところですが、令和2年度からの「たまの創生総合戦略」において初めて障害者スポーツ事業が重点事業として掲載されるなど、本市の中でも重要な位置を占めており、本事業に御協力いただいた関係者の皆様に大変感謝しています。

来年度は、この2年間の取組の集大成の年になる予定です。パラスポーツの魅力・意義を多くの人に伝えられるよう、スポーツ推進委員・教員等への普及はもちろんのこと、障害福祉団体等障害当事者との連携を深めていくことが重要だと感じています。今後も市立体育施設が障害者スポーツの拠点機能を担えるよう、障害福祉部局をはじめ、市内外の様々なネットワークとつながることができるよう、市としても関係部局と連携を図りながら取組を推進してまいります。

本市の取組は、障害者スポーツ専用施設などを持つことができないような、人口数万人の自治体にも応用可能な内容だと思っています。各自治体でネットワークの拠点をどこにするかは、自治体それぞれだと思いますが、いずれにせよ、多分野の方とつながっていくことができる障害者スポーツのネットワークの拠点を持つことが成功への近道だと思います。本市も引き続き、共生社会の実現に向けて、障害者スポーツの事業に取り組んでいきたいと思っています。

玉野市教育委員会 教育長 石川雅史